



資源を巡らせ CO₂排出を減らし 環境保全と経済活動を 共に回す

株式会社 脱炭素計画
(千葉市若葉区)

地球の温暖化は対岸の火事ではない。千葉市若葉区に、私たちが目指すべく「脱炭素社会」の実現に情熱を持って取り組む企業があります。その根幹には温かい地域への思いが見えました。



環境問題は熱分も柔和な笑顔が印象的な代表取締役社長、渡部貴志さん。本オフィスで

原点は、海が教えてくれた危機感

「大学時代にサーフィンで通っていた海岸の変化を感じたことが原点です」。代表の渡部貴志さんは創業の思いを語ります。かつては県道30号線から砂浜へ車で乗り入れられた場所が、高波による浸食で入れなくなり、その時に地球温暖化を強く実感したと言います。

CO₂削減を意識した暮らしの提唱

大学法学部を卒業後、環境分野の民間企業でISO審査や廃棄物コンサルに携わ

2010年10月、政府は2050年までに「脱炭

素社会の実現」を目指すことを宣言しました。「その本質は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出そのものを減らすこと

組みは、生ごみの収集や焼却に伴う輸送と燃焼のCO₂やコストも削減します。

循環型の選択肢を地域の身近にする

地元・千葉市への「恩返し」を大切にする渡部さんは、雇用創出や子ども向けの学びの場づくりにも力を入れます。夏休みの自由研究企画のように、子どもたちが生ごみの分解から作物の成長までを体験できる場を提供することは、循環型の選択肢を身近にしたいという思いから。地域レベルで循環

※地域イベントなどの
詳細はHPで



(みんな)



生ごみ処理機「SINKPIA」の生ごみ分解の様子。生ごみが、進んだ状態で微生物が分解され、堆肥になります。

同社の主な取り組みの一つとして、業務用生ごみ処理機の導入による現地循環を提唱しています。生ごみを微生物の力で分解し分解液を培養液として農地へ戻し、安全に育てた野菜を収穫する。この循環の仕



取締役の月橋さん(左)、取締役副社長の押田さん(右)と

問い合わせ
TEL 043(312)7883
info@datsutansokeikaku.co.jp
株式会社 脱炭素計画